

くまびょう

2007

115号

NEWS

くまびょう  
NEWS2007年  
1月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519

謹賀新年



2007年 元旦



## 新年の御挨拶

国立病院機構熊本医療センター  
院長 宮崎 久義

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は多面にわたり御指導、御支援を賜りありがとうございました。職員を代表しまして心より御礼を申し上げます。

2007年は亥年で、目的達成に向かって職員一同邁進したいと存じます。

本年は病院更新築の第Ⅱ期工事着工の年であります。建築を開始しますとほぼ3年で竣工の予定です。

関係各位の御指導の下に良質で高度な医療を提供できる病院となるように職員の知恵と夢を集積致しました。更新築工事中も医療の質の向上に停滞なきよう診療に、教育・研修、臨床研究、国際医療協力に本年も新たな取り組みを実行に移したいと存じます。

これまで以上の御指導、御支援を賜りますようお願い致します。

本年が良い年となりますことをお祈り申し上げます。

2007年 元旦

### 第22回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会のご案内

- 日時 : 2007年2月14日(水) 19時~21時  
 場所 : 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター  
 内容 : 1. 紹介症例の呈示 2題  
 2. 総合討論  
 3. 特別講演「これからの医療提供体制について」 厚生労働省 近畿厚生局長 松本義幸 様

〈参加申込先〉国立病院機構熊本医療センター管理課  
 住所 〒860-0008 熊本市二の丸1-5 電話 096-353-6501 内線390 (西田・上園)



## 「地域に根ざす診療所を目指して」

医法) 社団金森会

金森医院

理事長 金森 正周



熊本の南西15キロの宇土市で父の後をついで開業し約30年になります。国立熊本病院に勤務していた川村亮機先生と、濱田勢冶先生と一緒に仕事をしています。

金森医院は有床診療所で一般病床19床、通所リハビリ（定員48名）、併設として介護老人保健施設あさひコート（定員60名）、通所リハビリ（定員55名）、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所、在宅介護支援センターと、少し離れた場所に3ヶ所の通所介護（デイサービス）が

あり、全体で職員数は180名になります。

以前から訪問診療、往診、在宅ターミナルケアも取り組んでいましたので、今年4月から制度化された在宅療養支援診療所にもなっており、かかりつけ医としてプライマリアケアを行っています。外来では種々疾患の方が受診され必要であれば精査等積極的に紹介しています。国立病院機構熊本医療センターは各科が揃い充実しており、各科にまたがる疾患を持っておられる方、精神科に関連あるような方等の紹介先として非常にありがたく思っております。又、血液疾患等もよく紹介していますが返書の内容が解かり易くその後フォローに役立てています。

診療所は私ども3人の医師や他の医師の応援を得ながら日・祭日・夜間の当直医体制を何とか維持していますが、昨今の状況からこれを維持できるか心配しているところです。

10年程前までは救急患者の受け入れ先を探すのに苦労していたこともありましたが、最近ではインフルエンザの流行期を除くとほぼ受け入れてもらえるようになり、第一線の診療所としては不安感が少なくなりました。国立病院機構熊本医療センターにも無理をお願いすることもあります。嫌がらずに受けてもらい感謝しております。急性期病院の入院期間短縮もあり、退院後の有床診療所の有効利用を含め、病診連携がスムーズに行われれば患者さんにとっても喜ばしいことではないかと思えます。

今後もよろしくお願い致します。

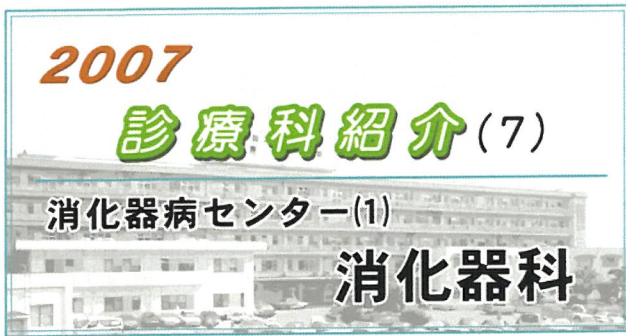
## 開放型病院運営協議会から

2006年度第2回（通算23回）の国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が2006年12月11日（月）午後7時より当院の地域医療研修センター会議室で開催されました。委員長の熊本市医師会長福田稗先生、委員の田中先生、清田先生、竹下先生のご出席を頂き、当院から宮崎院長、池井副院長、河野副院長、野村部長の4名が委員として出席しました。院長より医師会長はじめ医師会委員の先生方に日頃のお礼を述べ、続いて福田委員長より挨拶を頂きました。議事に移り、事務局より開放型病院利用状況として、資料をもとに開放型病院登録医数、訪問医師数、共同指導数などを報告しました。次いで第21回開放型病院連絡会（2006年9月11日、くまもと県民交流館）の参加者数、「くまびょうニュース」の発行状況について報告を行

いました。第21回の連絡会には300名を超える参加者があり、御出席頂きました先生方には改めてお礼申し上げます。「くまびょうニュース」は毎月1,600部を超えて発行されていることが報告されました。

次の協議事項では、第22回開放型病院連絡会の開催について協議され、2007年2月14日（水）午後7時より当院の地域医療研修センターにて開催し、例年通り、症例呈示、開放型病院への要望を中心とした総合討論、最後に特別講演を行うことが決定しました。特別講演は療養病床の問題や地域医療計画などを含めた「これからの医療提供体制」についての講演を企画する方針となりました。また連絡会当日は、附属看護学校前の新築工事予定地を臨時駐車場として用意致します。お車の方は二の丸公園側の門よりお入り下さい。開放型病院連絡会に多数の先生方、スタッフの皆様がご参加頂きますようお願い申し上げます。

（副院長 池井 聡）



前田 和弘

消化器内科、消化器内視鏡  
治療内視鏡

日本内科学会認定医  
日本内科学会指導医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本消化器内視鏡学会指導医



中田 成紀

消化器内科、消化器内視鏡  
治療内視鏡、肝臓病



杉 和洋

消化器内科、消化器内視鏡  
肝臓病、腹部超音波

日本内科学会認定医  
日本内科学会指導医  
日本肝臓学会専門医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器病学会指導医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
外国医師臨床修練指導医  
日本消化器病学会九州評議員  
日本肝臓学会西部会評議員



押方 慎弥

消化器内科、消化器内視鏡  
治療内視鏡



渡邊 丈久

消化器一般

## 診療内容と特色

消化器科は、外来・入院の消化器疾患の診療、および内視鏡検査室、超音波検査室の運営を行っています。

近年、人的にも機器の面でも診療機能が強化され、検査件数や患者数が増加しています。

当科の診療の基本理念は、丁寧な対応と入念な治療、協調協力と新しい挑戦です。消化管内視鏡治療、慢性肝炎に対する抗ウイルス療法、肝細胞がんの診断と治療をはじめ、消化器疾患全般を広く治療しています。特に肝疾患治療には精力を注いでいます。また、経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG)、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の症例が増えてきています。

## 診療実績

	[患者数]		(名)	
	外来新患者数	月平均	新入院患者数	月平均
2002年度	1,612	134	852	71
2003年度	1,505	126	963	80
2004年度	1,549	129	1,047	87
2005年度	1,673	139	1,088	91
2006年度	1,923	160	1,196	100

## 研究実績

全国の国立病院機構肝疾患専門施設と共同でウイルス肝炎、原発性胆汁性肝硬変等の臨床研究を行っています。院内活動では、2003年より患者との教育と交流を兼ねて「肝臓病教室」を毎月第3金曜日に開催しています。

また国際医療協力として、2003年より新しく「肝炎の疫学とその予防、治療対策セミナー」を通じてJICA(国際協力機構)と共に途上国の肝炎専門医師等に対する研修を指導しています。

## ご案内

毎週水曜日には午後5時より内視鏡検査の症例検討会を、金曜日午前8時より消化器病カンファレンスを本館2階カンファレンスルームで行っています。ご参加を歓迎致します。また、興味ある症例や診断あるいは治療に苦慮される症例があればご紹介下さい。専門医が迅速に対処致します。

緊急を要する場合は、杉(内線731)、前田(内線706)に直接ご連絡下さい。また、時間外、休日は救命救急センターにご紹介頂ければ対応致します。

## 最近のトピックス

### 放射線治療最前線～いま力をいれていること～ ケロイド切除術後放射線治療を始めました



画像診断・治療センター  
放射線科

富高悦司

良性疾患であるケロイドは一方では“精神的悪性疾患”ともいわれており、難治性の症例に対してはいたずらに保存的治療に固執すべきではないと思われます。

当院では2004年10月に形成外科が開設されました。そこで形成外科大島医長と話し合い、①薬物療法などの保存的治療が奏効しない②疼痛や引きつれ感、搔痒感がある③整容的な改善を希望する④手術療法単独では再発が懸念される、のいずれかを満たし、かつ思春期以降であり文書による同意が得られた症例に限ってケロイド切除術後放射線治療を開始することとしました。

放射線治療は手術後48時間以内に開始しています。ケロイドは線維芽細胞由来の腫瘍であり、線維芽細胞の再増殖が始まる前に放射線治療を開始した方がより良いとされているからです。“ほやほや”の術創に放射線治療を行っても影響はありません。術創に5～10mmのマージンを含めた領域を照射野とし、照射野に入れたくない部位は2mm厚の鉛板でブロックします。そして5mm厚のボラスを照射野の上に置き、皮膚表面の線量を上げるようにします。照射線量は、耳介部以外の部位に対しては電子線4MeVにて1回線量5Gy

で連続4日照射(総線量20Gy)、耳介部に対しては4MeVにて1回線量5Gyで連続3日照射(総線量15Gy)としています。

なお、後療法として術後最低3ヶ月間のテープによる局所圧迫と局所を引っ張らない、こすらないという生活指導を形成外科より行って頂いています。

2006年6月までに13症例15部位に対しケロイド切除術後放射線治療を施行し、経過を観察してきました。再発は15部位中2部位に認められ、再発率は13.3%でした。ただ、切除術前より悪化した症例はなく全例に改善を認めました。ケロイドは切除術を行ったとしても再発率は50～80%といわれていること、他の文献における再発率は2.4～53%であることをみても、良好な結果といえると思います。

副作用についてですが、急性期副作用としてはほぼ全例に一過性の色素沈着を認め、亜急性期副作用として1例に色素脱出を認めました。晩期副作用としては1例に色素沈着の遷延、他の1例に毛細血管拡張を認めました。

この結果を11月に行われた第19回日本放射線腫瘍学会にてポスター展示し、発表を行ってきました。



術後



術前



5ヶ月後

# 第12回国立病院機構熊本医療センター医学会開催のご案内

公開の医学会です。多くの皆様のご参加をお待ち致します。

**2007年1月13日（土曜日）**

開会の辞 8:50～9:00 院長 宮崎 久義

第1部 9:00～12:00

**セッションⅠ 9:00～10:03**

座長：栗崎 貴、有馬 京子

1. 血行障害による胃穿孔で急性汎発性腹膜炎を発症した1例  
外科 佐々木彰子、前田健晴、佐藤伸隆、山本謙一郎、吉田直矢、田中真一郎、  
大堂雅晴、栗崎貴、片渕茂、池井聰
2. 虫垂炎術後に後腹膜膿瘍から縦隔膿瘍・膿胸を発症した糖尿病の1例  
外科 佐藤伸隆、大堂雅晴、山本謙一郎、前田健晴、吉田直矢、田中真一郎、栗崎貴、  
片渕茂、池井聰
3. 外傷性脾損傷の検討  
外科 田代奈津己、佐藤伸隆、栗崎貴、大堂雅晴、吉田直矢、田中真一郎、山本謙一郎、  
前田健晴、片渕茂、池井聰
4. 高気圧酸素治療の現状  
臨床工学技士 竹本勇介、新木信裕、川内直、田代博崇  
救命救急部 高橋毅  
麻酔科 江崎公明
5. 当院における人工呼吸器装着患者の動向と今後の課題  
麻酔科 瀧賢一郎、川本和彦、上妻精二、田尻晃彦、江崎公明  
臨床工学技士 田代博崇、川内直、新木信裕、竹本勇介
6. 当院における超高齢者肺癌症例に対する手術経験  
呼吸器内科 西本康兵、田尻守弘、森松嘉孝  
外科 田中真一郎、佐藤伸隆、片渕茂、栗崎貴、大堂雅晴、吉田直矢、前田健晴、  
池井聰、芳賀克夫  
外山内科 外山博之  
わだ内科クリニック 和田敏
7. 口腔内保湿効果を高める口腔ケアの検討  
看護部別館3病棟 岩崎伊代、中村待子、鶴田道子、池田としえ、下地美千代

**セッションⅡ 10:03～11:06**

座長：宮尾雄治、堀 弥生

8. 心肺停止直後からのバイスタンダーCPRにて社会復帰できた3例  
循環器科 福嶋隆一郎、田中朋子、村上和憲、宮尾雄治、藤本和輝
9. 術前検査を契機に発見された気管支喘息合併PIE症候群の1例  
呼吸器内科 山部典久、森松嘉孝、田尻守弘  
産婦人科 三森寛幸  
米田産婦人科医院 米田義典
10. 過敏性肺臓炎との鑑別が問題となった急性好酸球性肺炎の1例  
呼吸器内科 清水千華子、萩原莉奈、田尻守弘、森松嘉孝  
県立延岡病院 永野潤二
11. 胸部大動脈疾患に対するopen stent graftの効果  
心臓血管外科 岡本実、毛井純一、岡本健

12. 高度誤嚥のため口頭気管分離術を行った1例  
耳鼻咽喉科 羽馬宏一、春野尊、野口聡、緒方憲久、土生健二郎
13. 細胞診で甲状腺由来を推定しえた頸部原発不明癌  
臨床検査科病理 吉野歩、船瀬将一、加藤裕一、大田家由美  
国民健康保険植木病院 久米修一  
耳鼻咽喉科 緒方憲久  
臨床研究部病理研究室 村山寿彦
14. 看護学生が健康障害を持つ小児に遊びの援助を判断する視点  
看護学校 荒木美佐子、安浪小夜子

**セッションⅢ** 11:06~12:00

座長：青木浩則、堤 令子

15. 心因反応を疑われ入院となった日本脳炎の1例  
神経内科 高橋亜紀、幸崎弥之助、田北智裕、俵哲
16. 両眼の高度な視力障害を伴った急性緑内障の1例  
眼科 田原仁、高野晃臣、青木浩則
17. 超速効型インスリン（インスリンアスパルト）に対し軽度の局所アレルギー反応を呈した1例  
内分泌・代謝内科 緒方真貴子、清水千華子、高橋亜紀、山村明子、市原ゆかり、児玉章子、高橋毅、東輝一朗、小堀祥三  
和気内科医院 和気一壽
18. 副腎腺腫摘出後に治癒したCushing症候群に伴う糖尿病、高血圧の1例  
内分泌・代謝内科 山村明子、清水千華子、高橋亜紀、緒方真貴子、市原ゆかり、児玉章子、高橋毅、小堀祥三、東輝一朗
19. 発生初期から経時的に観察し得た悪性gliomaの1例  
脳神経外科 早崎藍子、佐藤恭一、吉里公夫、大塚忠弘  
賀来脳神経外科 賀来隆之
20. 新人看護師におけるメンタルヘルスの実態調査  
看護部副看護部長研究会 下村智美、森山ひろみ、西岡恵子、西辻美佳子、南利朱美

休憩 (12:00~13:00)

**特別講演** 13:00~14:00

座長：副院長 河野 文夫

病院の情報とマネジメント  
鹿児島大学附属病院副院長  
大学院医療システム情報学病院医療情報部長 熊本 一朗 教授

休憩 (14:00~14:10)

## 第2部 14:10~18:03

**セッションⅣ** 14:10~15:13

座長：永田光二郎、田中富美子

21. 大腿骨頸部骨折シームレスケア研究会における当院の現状－受傷前ADLに着目して－  
リハビリテーション科 榮彩人、出口敬浩、永田光二郎  
整形外科 野村一俊
22. 大腿骨頸部骨折連携クリティカルパスの使用状況と地域医療連携  
リハビリテーション科 出口敬浩、永田光二郎、榮彩人  
整形外科 野村一俊、橋本伸朗、福元哲也、前田智、沼田亨佑、立石慶和  
大腿骨頸部骨折シームレスケア研究会一同

23. 人工膝関節置換術後の到達目標と関節可動域について  
リハビリテーション科 永田光二郎、出口敬浩、榮彩人  
整形外科 野村一俊、橋本伸朗、福元哲也
24. Direct Anterior Approach (DAA) によるTHA の小経験  
整形外科 立石慶和、野村一俊、橋本伸朗、福元哲也、前田智、沼田亨祐
25. 単顆置換型人工膝関節 (UKA : Unicompartmental Knee Arthroplasty) の小経験  
整形外科 沼田亨祐、立石慶和、前田智、福元哲也、橋本伸朗、野村一俊
26. 内視鏡下脊椎手術の小経験  
整形外科 橋本伸朗、野村一俊、福元哲也、前田智、沼田亨祐、立石慶和
27. 大腿骨頸部骨折で入院した患者家族の転院に対する思い  
看護部東3病棟 天野友紀子、有吉可奈、本田理恵、藤戸邦子、田中富美子

**セッションV** 15:13~16:16

座長：金子忠明、吉岡明子

28. 熊本市における救急患者動向についての検証  
熊本市消防局救急課 石原和人、池田光隆
29. 精神科救急における国立病院機構熊本医療センターの役割  
熊本市消防局 荒木龍起、井上雅代
30. プレホスピタルケアにおける新しい蘇生法(G2005)の現状と課題  
熊本市消防局 金子忠明、西岡和男
31. 平成17年度の国立病院機構熊本医療センターにおける精神科救急医療の現状と課題について  
精神・神経科 酒井透、本田和揮、山下建昭、渡邊健次郎  
救命救急部 原田正公、吉岡明子、高橋毅  
熊本県立こころの医療センター 津田美佳子  
希望が丘病院 松本武士  
くまもと悠心病院 宮内大介  
熊本大学医学部附属病院  
精神神経科 兼田桂一郎、吉田敏知  
熊本大学医学部附属病院  
こころの診療科 橋本聡、武井宣之
32. 心肺停止蘇生後の低酸素脳症に対し、高気圧酸素療法を施行した1例  
救命救急部 佐田公範、原田正公、吉岡明子、高橋毅
33. 当院で経験したコリン作動性クリーゼの3例  
救命救急部 大門有由美、原田正公、児玉章子、高橋毅
34. 有機リン中毒による自殺企図の1例  
救命救急部 北田真己、原田正公、吉岡明子、児玉章子、高橋毅

**セッションVI** 16:16~17:19

座長：日高道弘、田代清美

35. リン酸カリ複合肥料服用により心停止をきたした1例  
救命救急部 吉岡明子、平島みほ、原田正公、高橋毅
36. 下顎部腫瘍および巨舌を契機に診断し得た無症候性多発性骨髄腫の1例  
血液・膠原病内科 東野哲志、日高道弘、清川哲志  
神経内科 俵哲  
耳鼻咽喉科 野口聡  
病理部 村山寿彦  
臨床研究部 河野文夫

37. 移植後の多発結節肺病変にポリコナゾールが奏効した1例  
 血液・膠原病内科 門脇嘉宣、榮達智、武本重毅、長倉祥一、日高道弘、清川哲志  
 国立療養所菊池恵楓園 塚本敦子  
 臨床研究部 河野文夫
38. 回盲部原発性悪性リンパ腫で消化管穿孔を来した1例  
 臨床検査科 竹内保統、佐藤和宗、中原真里、垂水綾、安達知子、坂井綾子、佐々木妙子、  
 廣瀬英治
39. 当院における電子化栄養管理計画書の現状と課題  
 栄養管理室 土谷純子、藤崎まなみ、尾上陽子、浅井和子  
 外科 吉田直矢  
 皮膚科 萱島研一  
 内分泌・代謝内科 東輝一朗
40. 仕事への意欲の向上を目指した段階別教育導入の効果  
 看護部師長研究会 徳永雄規、森田恵、荒木美佐子、武居映子、原野裕子、松永智子
41. 新人看護師の情報収集能力を高める教育支援  
 看護部師長研究会 田代清美、有馬京子、谷村優子、松本メグミ、田中富美子、城雪子

**セッションVII** 17:19~18:13

座長：西本博美、浅尾千秋

42. 九州ブロック内国立病院療養所放射線技師の接遇の現状と問題点  
 放射線科 今田美香、有迫哲朗、豊永真紀子、長岡里江子、松永博、西本博美
43. 骨転移における高速撮像法True FISPの有用性の検討  
 放射線科 酒本司、松永博、西本博美
44. 肺野領域におけるDMU値の検討  
 放射線科 川本和弘、浦本雅巳、廣瀬親、松永博、西本博美、富高悦司
45. 非造影2D-time of flight法を用いた下肢MR venographyの検討(第1報)ー撮像パラメーターについてー  
 放射線科 市川和幸、堀上英昭、酒本司、有迫哲朗、松永博、西本博美
46. 非造影2D-time of flight法を用いた下肢MR venographyの検討(第2報)ー加温及び撮像体位についてー  
 放射線科 堀上英昭、市川和幸、酒本司、有迫哲朗、松永博、西本博美
47. CTで診断可能であった閉鎖孔ヘルニアの7例  
 放射線科 齊藤哲雄、荒木裕至、浅尾千秋、富高悦司、吉松俊治

**2007年1月14日(日曜日)**

第3部 9:00~12:00

**セッションVIII** 9:00~10:03

座長：岡部正人、森田 恵

48. マンソン孤虫症の1例  
 皮膚科 後藤和重、藤澤明彦、萱島研一  
 国立療養所菊池恵楓園 城野剛充  
 福岡大学微生物免疫学 廣松賢治
49. 先天性頭皮動静脈奇形(AVM)の1例  
 形成外科 高田了也、大島秀男
50. 巨大色素性母斑の治療  
 形成外科 大島秀男、高田了也
51. 診療報酬改定における後発医薬品の取り組み  
 薬剤科 湊本康則、東島彰人、富澤達



52. 国立病院機構熊本医療センターにおける膀胱全摘術の臨床的検討  
 泌尿器科 瀬下博志、田上憲一郎、陣内良映、土岐直隆、菊川浩明  
 川野病院 川野尚  
 熊本泌尿器科病院 野尻明弘  
 平山泌尿器科医院 平山英雄
53. 検査機器導入・オーダリングによる時間的効果について  
 臨床検査科 安田正代、吉原正保、西原幸治、廣瀬英治
54. 医業未収金の問題点と解決に向けて  
 事務部企画課 東瀧英志、仲地善美、花木成信、村上和明、三角正一

**セッションIX** 10:03~11:06

座長：吉川成章、城 雪子

55. 上部消化管出血－当科における傾向と対策－  
 消化器科 押方慎弥、渡邊丈久、中田成紀、加茂章二郎、前田和弘、杉和洋
56. 当院における食道・胃静脈瘤治療について  
 消化器科 中田成紀、渡邊丈久、押方慎弥、加茂章二郎、前田和弘、杉和洋
57. ペースト食のとりよみの強度均一化に向けて  
 栄養管理室 藤崎まなみ、尾上陽子、土谷純子、浅井和子  
 内分泌・代謝内科 東輝一郎
58. 直腸腺腫を合併した高齢発症ネフローゼ症候群の1例  
 腎臓内科 平島みほ、富田正郎、宮中敬
59. 生化学分野における共同購入・試薬統一化・機器更新による経費削減について  
 臨床検査科 吉原正保、安田正代、西原幸治、廣瀬英治
60. 入院時血液がん化学療法のレジメンチェックシステムの構築  
 薬剤科 田淵真弓、富澤達  
 血液・膠原病内科 長倉祥一

**セッションX** 11:06~12:00

座長：木村圭志、近藤和子

61. 高度の脂肪肝を伴った原因不明の肝不全の乳児例  
 小児科 楠本優、伊藤浩、森永信吾、高木一孝  
 出町おがたこどもクリニック 緒方敬之
62. 卵巣腫瘍（成熟嚢胞性奇形腫）破裂の1例  
 産婦人科 萩原利奈、福田潤一郎、永井隆司、柴田三郎、三森寛幸
63. 口底部に発生した巨大な脂肪腫の一例  
 歯科・口腔外科 兒玉美穂、片岡奈々美、蔵本和咲、児玉園昭  
 河上歯科医院 河上正
64. IFN療法を受ける患者への外来看護師の関わり方  
 看護部外来 鳴川はるみ、宮本洋子、大岩真由美、荒田和江、城雪子
65. 患者参画型クリティカルパスの使用効果  
 看護部西1病棟 井戸誉子、前川ひとみ、小田麻里子、中谷優子、河野敬子、田代清美
66. 臨床試験へのクリティカルパスの導入（その2）  
 治験センター 中川義浩、林淳一郎、久保美紀子、市下由美、富澤達、河野文夫  
 泌尿器科 菊川浩明  
 呼吸器内科 森松嘉孝

前年度優秀発表者表彰 12:00~12:10 院長 宮崎 久義

総評・閉会の辞 12:10~12:20 副院長 池井 聡

# 平成18年度 院内感染対策研修会のご案内

開催日：2007年1月24日(水)～26日(金)

開催場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

日程	時間	講義内容	内 容	
1月24日(水)	12:00～	受付開始		
	13:00～	オリエンテーション		
	13:10～	開会式		
		挨拶	国立病院機構九州ブロック担当理事 (国立病院機構熊本医療センター院長)	宮崎 久義
	13:20～	院内感染起因菌の分子疫学	国立国際医療センター研究所	感染症制御研究部長 切替 照雄
	14:15～	バンコマイシン薬剤耐性菌の現状と予防について	国立感染症研究所	細菌第2部 鈴木 里和
	15:15～	医療従事者感染防止対策	国立病院機構九州医療センター	感染症対策室長 山本 政弘
	16:10～	手術部位感染対策	国立感染症研究所 感染症情報センター	主任研究官 森兼 啓太
1月25日(木)	09:00～	エビデンスに基づく院内感染対策	国立病院機構九州ブロック	医療課長 芳賀 克夫
	09:50～	疥癬の院内感染対策	国立病院機構熊本医療センター	皮膚科医長 加口 敦士
	10:30～	国立病院機構ネットワークによる薬剤耐性菌サーベイランスについて	国立病院機構熊本医療センター	副薬剤科長 東島 彰人
	11:10～	院内感染対策一国の事業から	厚生労働省医政局指導課	医療放射線監理担当官 徳本 史郎
	12:00～	昼食・休憩		
	13:00～	抗菌薬の適正使用	自治医科大学	感染防御学 五味 晴美
	14:00～	インフルエンザの院内感染対策(鳥インフルエンザを含む)	国立病院機構仙台医療センター	臨床研究部ウィルス室長 西村 秀一
	15:00～	多剤耐性膿菌の現状と対策	長崎大学医学部附属病院 臨床検査医学	講師 平潟 洋一
	16:00～	結核の院内感染対策 一保健所の立場から	熊本市保健所 感染症対策課	課長補佐 佐藤龍一郎
	1月26日(金)	09:00～	院内感染サーベイランス	国立病院機構熊本医療センター
09:45～		手洗いの重要性と実践	国立病院機構熊本医療センター	感染管理認定看護師 吉田真由美
10:20～		滅菌と消毒	山口大学医学部附属病院	薬剤部助教授 尾家 重治
11:15～		大阪医療センターにおける院内感染対策の現状	国立病院機構大阪医療センター	ICU看護師長 阿島 美奈
12:00～		昼食・休憩		
13:10～		沖縄県立中部病院における院内感染対策の現状	沖縄県立中部病院	内科・副部長 遠藤 和郎
14:10～		名古屋市立大学附属病院における院内感染対策	名古屋市立大学看護部看護研究科	教授 矢野 久子
15:10～		全体質疑・応答	(司会) 沖縄県立中部病院 国立病院機構熊本医療センター (コメンテーター)	内科・副部長 遠藤 和郎 副院長 河野 文夫 尾家 重治 矢野 久子 阿島 美奈
16:45～		閉講式	国立病院機構熊本医療センター	副院長 池井 聡

本研修は国立病院機構本部九州ブロック事務所の主催によるものです。席に若干の余裕がありますので参加を希望される方は往復ハガキにて1月17日(水)までに下記宛お申し込み下さい。

〈問い合わせ先〉国立病院機構熊本医療センター管理課(西田・上園)  
〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL096-353-6501(内線390)

# 新任職員紹介



感覚器センター  
皮膚科医長

か ぐち あつ し  
加 口 敦 士

2007年1月より皮膚科に勤務することになりました  
加口敦士と申します。

私は1996年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学  
病院皮膚科に入局しました。大学で1年間研修後、

熊本労災病院で2年目の研修を終え、その後は飯塚病院、再び熊本大学病院、2005年4月からは熊本労災病院に勤務しておりました。最近では高齢化が進み、それに伴って皮膚疾患も増加、多様化してきているように思います。かゆみ、痛みといった皮膚症状は患者様にとっても苦痛が多く、生活の質を低下させることがあり、また皮膚は目に見えるため、軽微な症状でも患者様ご本人にとっては大きな悩みであることも多いようです。そんな患者様のご期待に少しでも答えられるようにしていきたいと考えております。



脳神経センター

神経内科

はた だ ゆたか  
畑 田 裕



本年度より初期研修をさせて頂いております畑田  
裕と申します。国立病院機構熊本医療センター専属  
の研修医として2年間お世話になります。

これまで半年間内科系をローテートした後、救命  
救急部で研修し、現在麻酔科で研修をしております。

知識も技術もほとんどない状態からのスタートでしたが、指導医の先生方から基本的な手技から医師としての心構えまで丁寧に指導して頂き、この9ヶ月間で自分なりに成長できたと思います。

決して患者様の受け入れを拒否しない当院救急外来の方針もあり、これまで短い間に多様な患者様を診ることができ、多くのことを学ばせて頂きました。救急外来に重症で搬送された患者様を受け持つことになり、患者様が少しずつ良くなり退院していくのを見るのは大きな喜びでした。様々な手を尽くしてもなかなか良くならず、結局救命できなかったこともあります。初めて受け持ち患者様がお亡くなりになったときは1週間ほど沈鬱な気分が続きました。様々な患者様を診ることができる当院で充実した研修生活を送ることが出来ていると思います。

未熟な身であり、今後も先生方や医療スタッフの方々にご迷惑をかけることも多々あると思いますが、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

麻酔科

ま え あき ゆき  
万 江 暁 之



岐阜大学医学部を卒業後、2006年4月より当院にてスーパーローテート研修をさせて頂いております万江暁之と申します。スタッフの方々には大変お世話になっております。

当病院での研修が始まり、現時点で早9ヶ月が経とうとしております。これまでに外科、救命救急部、麻酔科、循環器科、神経内科にてそれぞれ約2ヶ月の研修をさせて頂きました。始めはひたすら指導医の後ろについてまわり病院に慣れることから始まり、少しずつ抹消ラインの確保、採血といった基本的な手技から、気管内挿管、中心静脈カテーテル留置など大切な手技を日々学んできました。今後も手技だけでなくプレゼンテーション能力に磨きかけることを目標に頑張っていきたいと思っております。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 南カリフォルニア大学救急部スワドロン先生をお迎えして



外科医長  
芳賀 克夫

2006年10月22日から28日まで、南カリフォルニア大学の救急部助教授であるスワドロン先生を国立病院機構熊本医療センターに迎えて、医療の質の管理に関する共同研究と研修医、指導医などの職員教育を行っていただきました。

南カリフォルニア大学の救急部は全米で最大規模のERを持ち、外部評価機関から全米で最も質が高いとの評価を受けています。あの有名なテレビドラマ「救急救命室ER」はハリウッドのスタジオで撮影されていますが、その技術指導を行っているのが南カリフォルニア大学救急部のスタッフです。

アメリカの救急医は、正に万能の医師です。広範な知識と高い専門性を持ち、救急患者の初期対応に当たります。麻酔も自分たちで行い、関節脱臼の整復、開頭ドレナージ術や開胸下大動脈遮断なども行います。外傷患者の90%は外科医や整形外科医を呼ばずに自分たちだけで診ることができると述べていました。また、内科疾患も心筋梗塞、薬物中毒、意識障害など広範な患者の初期対応に当たっています。彼の心電図の講義を聞きましたが、その博学ぶりにただただ驚いた次第です。心電図1枚で中毒薬物の種類を特定していました。

日本では自分の専門以外の患者は診ないという医師が多い中、このように全身を診ることができるジェネラリストの養成が急務であると痛感させられた次第です。

スワドロン先生は南カリフォルニア大学救急部のレ

ジデント・プログラム責任者であると同時に、米国救急医学会の全国教育者賞（National teaching award）を受賞した経歴を持ち、医師の卒後教育のプロ中のプロです。研修医、指導医等を対象に、症例検討会、回診、講義、エコーの実技指導等を行っていただきましたが、その卓越した指導力、人を引き付ける話術に、参加者は皆深い感銘を受けました。最終日の講演（第3回国際医療協力セミナー）では、当院の医師から次々と質問が出て、40分にもわたる白熱したディスカッションが続きしました。

彼は今後も当院に来て職員教育を行うことを約束してくれました。昨年招聘した南カリフォルニア大学病院副院長のヘーゲン先生と一年交代で当院に招聘する予定です。このことが、当院職員の意識改革、引いては、卒後教育の充実に繋がれば幸いです。



カンファレンスで指導中のスワドロン先生

## 国際医療セミナーに参加して



研修医  
佐田 公範

今秋、当院へ最大級の救命救急センターを擁する南カリフォルニア病院から、フィリップ・スチュワート・スワドロン助教授をお迎えしました。

私はスワドロン氏を空港までお迎えしましたが、氏は最初からあらゆることに興味を持ち、何ともアグレッシブな

方でした。日本の文化にも大変興味を持たれ、熊本城では“Amazing!”という科白を何度も耳にしました。当院でもそれは同様でした。我々研修医のプレゼンテーションを1つ1つ真剣に傾聴し、嬉しそうに感想を語り、興味深く質問をぶつけてくれました。実際のところ、氏が日本の“shy”で“looks young for their ages”な研修医たちをどのように評価したかどうかは分かりませんが…

いずれにせよ我々1年目の研修医にとっては今年最大のイベントであり、日常に埋没しがちな中、アメリカの医療を知る得難い経験でした。

スワドロン氏にとっても初めての訪日であり、互いにとって貴重な体験であったと思います。

# 研修のご案内

## 第96回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶2007年1月15日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧  
国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝
  2. 持ち込み症例の検討
  3. 症例呈示「Ticlopidineによる血栓性血小板減少性紫斑病の一例」  
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 榮 達智
  4. ミニレクチャー「重症心不全患者に対する除細動機能付き心臓再同期療法(CRTD)の有用性」  
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 宮尾 雄治
- 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいませようお願い致します。  
[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第59回 特別講演 (無料)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶2007年1月17日(水)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 「精神科診療における最近の話題」

国立精神・神経センター武蔵病院院長 樋口 輝彦

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

## 第65回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

[糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]

日時▶2007年1月18日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 『妊娠糖尿病の管理』  
国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科 児玉章子、市原ゆかり、高橋 毅、東輝一郎、小堀祥三
  2. 『患者の費用負担を考慮したインスリンデバイスの選択』  
国立病院機構熊本南病院代謝内科 佐藤佳宏、櫻田 郁
- パネルディスカッション『糖尿病治療地域連携クリティカルパスを動かすために』  
なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。  
[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 小堀 祥三・東 輝一郎 TEL 096-353-6501(代表) 内線796

## 第208回 初期治療講座 (会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

[日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定]

日時▶2007年1月20日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 「結核の臨床」

座長 熊本市医師会 平岡 武典

1. 国立病院機構熊本医療センターにおける結核の現状  
国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝
2. 診断・治療に苦慮する結核  
福岡県済生会二日市病院副院長 力丸 徹
3. 我が国における結核の現状と課題  
国立病院機構近畿中央胸部疾患センター  
臨床研究センター感染症研究部長 鈴木 克洋

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

## 第85回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶2007年1月24日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### テーマ：透析中の80歳代女性、病状の急変について

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター腎センター長 富田 正郎

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理室長 村山 寿彦

「糖尿病を伴う慢性腎不全の患者がシャントトラブルで入院となった。入院後16日目に病状が急変し呼吸停止を起こし心肺蘇生を行った。その後人工呼吸器からの離脱は出来ず、入院後38日目に死亡された。」

\* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

2007年

# 研修日程表

1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修ホール	会議室	その他
4日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
5日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
9日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
10日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
11日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
12日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
13日(土)	8:50~18:15 第12回 国立病院機構熊本医療センター医学会(第1日目)(公開)		
	15:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会		
14日(日)	9:00~12:20 第12回 国立病院機構熊本医療センター医学会(第2日目)(公開)		
15日(月)	19:00~20:30 第96回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
16日(火)	18:00~19:00 第34回 くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
17日(水)	19:00~21:00 第59回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本市医師会 村山 英一 「精神科診療における最近の話題」 国立精神・神経センター武蔵病院長 樋口 輝彦	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
18日(木)	19:00~20:45 第65回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
19日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
20日(土)	15:00~18:00 第208回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] [日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定] 座長 熊本市医師会 平岡 武典 「結核の臨床」 1. 国立病院機構熊本医療センターにおける結核の現状 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝 2. 診断・治療に苦慮する結核 福岡県済生会二日市病院副院長 力丸 徹 3. 我が国における結核の現状と課題 国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 臨床研究センター感染症研究部長 鈴木 克洋		
22日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
23日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
24日(水)	12:00~17:00 平成18年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第1日目) 19:00~20:30 第85回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「透析中の80歳代女性、病状の急変について」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
25日(木)	9:00~17:00 平成18年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第2日目) 18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
26日(金)	9:00~17:00 平成18年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構)(第3日目)		8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
29日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
30日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
31日(水)	19:30~21:00 臨床口腔外科研究会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)